

26 元日の地震体験（16）

（杉田さん）

障害のある当事者や家族が「こんなことに困っているんです。」ということはどうやって口に出していくか。「助けて。」と言わないと助けられない、というところもあると思うのです。

そこが、先ほども「ジレンマ」と言われたけれど、その辺りの部分で、我慢は僕も多分するのだろうけど、いつの時から我慢じゃなくて、対等にこういうことは必要だと思います。「お願いします。」と言えるようになってきたのか。いや、今でも言えないのかとか。その辺りを是非聞かせてもらえたらなという。

三重県の杉田さんからの写真です。



三重県桑名市の
なばなの里のイルミネーションです。



赤福餅です。中に赤福餅が入っています

（川崎さん）

難しいな。災害ということにフォーカスして考えると、やはり今、言われたように、自分なり家族がSOSを発信して、誰がどのように受け止めてくれるのか。どのような立場の人でも、同じようにしてSOSが届いた時に、何か次の行動を起こせるような仕組みがあれば良いなと。助けを求めているな。じゃあ、誰に言おう。どこそこに言おう、というものが何通りかあって、誰でもが伝えられる。言葉としてでも伝えられる仕組み。たとえば役場に言っても、役場も今回被災して、職員も数名で初動したということで十分に連絡もできませんでした。ごめんなさい、というのはありましたけど、そういうものでしょうね。多分。

自分は障害があるから「特別に早く助けてください。」とは自分は思いませんでし